

第465回(1月22日開催)

出席委員(50音順・敬称略)

朝野 富三                    荒巻 裕

木下 明美                    黒田 勇

櫻井 美幸                    森 輝彦

書面参加

大村 英昭                    倉光 弘己

テレビ番組「リアルタイム」

1月12日(土)午前8時~

9時25分 放送分中心

櫻井委員

全体的にはテンポがよく内容も盛りだくさんで、肩ひじを張らずに楽しめると同時に役に立つ情報もあって好印象を持った。ただ、司会者とコメントターの発言内容にやや物足りなさを感じる場面もあった。今後コメントの求め方や答え方を工夫すると、もっと良くなると思う。

朝野委員

大阪発のきっちりとした番組で、最後まで飽きずに見ることができた。全体として締まった感じがしたのは、何か感動とか共感といったキーワードを隠し味的にきちんと入れているからではないか。出演者それぞれが、もっとお互いに意見をぶつけ合えるようになれば、番組自体の興行きも出てくるのではないか。

木下委員

関西というローカルが持っている資源を十分に生かしている内容だ。全国ネットであっても関西のコーナーを大切に、今後も様々な関西というものを全国発信で見せてほしい。欲を言えば、番組の核になる存在として、女性が共感できて一緒に番組を作っていく気持ちにさせるような、男性ではなく女性がほしいと思った。

黒田委員

スタート時に比べると、司会者の二人は大分硬さも取れ、慣れが感じられる。以前にも言ったが、政治や経済の娯楽化が進む中で、逆にスポーツ、芸能、娯楽を政治経済的に見ていこうという視点をしっかり持てば、非常におもしろい社会情報番組になるのではないか。今回はその良いチャンスだと思う。

荒巻委員

大変に元気のいい番組で、私にとっては久しぶりに学生たちに見せたいと思う番組に出会ったというのが実感だ。大阪発の番組なので、関西の特色をいかにして出していくかということが大事なのは言うまでもないが、関西以外の地域の埋もれた話題を掘り起こしていくことも大切だと思う。

森委員長

土曜の朝の時間帯に関西発の報道・情報系の番組に真正面から取り組んでいることを高く評価したい。関西発という意味は、関西人が持ち合わせている生活や仕事のペースでの特性をきちんと出すことである。まじめで良心的な番組ではあるが、コメンテーターも含めあくの強さといったものがもっと出てくれば、番組としてのブランドイメージが上がるのではないか。

大村副委員長（書面）

全体として、テンポも良くエンターテインメント性もあって、飽きずに見られる好番組だと言える。取り上げた話題も、ローカルアイデンティティーを保ちながら、ユニバーサルな含みもあって良かったと思う。

ただ、司会者やコメンテーターの布陣に工夫の余地があると思った。

倉光委員（書面）

ワイドショー仕立てではあるが、硬派の情報番組として期待できると思う。ただ文明批評的に見ると、この番組はまるで病院の集中治療室における液体栄養剤のようだ。そしゃくもいらず、流し込まれるだけで生きていける仕掛けによく似ていると思う。もっと価値判断のむずかしいテーマも取り上げていくことが重要である。

ラジオ・冬季聴取率調査の結果について

去年の12月に行われた関西圏ラジオ聴取率調査で、毎日放送ラジオが2年ぶりに首位に返り咲いたことなど、概要をラジオ局長が報告した。